

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-216372

(P2002-216372A)

(43) 公開日 平成14年8月2日 (2002.8.2)

4

(51) Int.Cl.
G 11 B 7/09
7/13
7/135

識別記号

F I
G 11 B 7/09
7/13
7/135

チ-ヤ-コ-1*(参考)
C 5 D 1 1 8
5 D 1 1 9
Z
A

審査請求 未請求 請求項の数11 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2001-14428(P2001-14428)

(71) 出願人 000005016

バイオニア株式会社
東京都目黒区目黒1丁目4番1号

(22) 出願日 平成13年1月23日 (2001.1.23)

(72) 発明者 小笠原 昌和
埼玉県朝霞市富士見6丁目1番1号 バ
イオニア株式会社総合研究所内

荒木 良朋

埼玉県朝霞市富士見6丁目1番1号 バ
イオニア株式会社総合研究所内

(74) 代理人 100079119

弁理士 鹿村 元彦

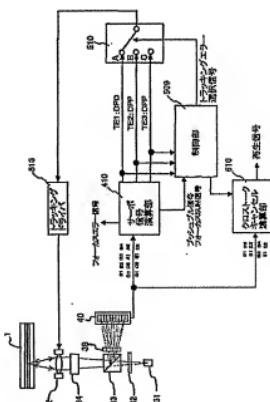
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 光ピックアップ装置

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 光ディスク構造が異なる多種類の光ディスクを記録再生する場合にDPP法によりトラッキングエラーバー信号を得ることができ、かつ、どの光ディスクを再生する場合でもCTC法を用いることができる光ピックアップ装置を提供する。

【解決手段】 照射光学系、光検出光学系、及び、サボ信号演算部410を有する光ピックアップ装置であって、照射光学系の光ビームの光路中に記録され、光ビームから0次回折光、±1次回折光及び±2次回折光を生成し、0次回折光のスポットが形成されたトラックの両側に隣接するトラックに±2次回折光のスポットをそれぞれ形成し、±1次回折光のスポットを0次回折光及び±2次回折光のスポットの中点にそれぞれ形成すべく配向されたグレーティング322素子を備え、光検出器40は、0次回折光、±1次回折光及び±2次回折光のスポットからの戻り光をそれぞれ受光する独立した受光素子を備える。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 光学式記録媒体の記録面上のトラックに光ビームを集光してスポットを形成する照射光学系、及び、前記スポットから反射されて戻った戻り光を光検出器へ導く光検出光学系、前記光検出器の出力に基づいて生成されたエラー信号によって駆動される光ピックアップ装置であって、

前記照射光学系の前記光ビームの光路中に配置され、前記光ビームから0次回折光、±1次回折光及び±2次回折光を生成し、0次回折光のスポットが形成されたトラックの両側に隣接するトラックに±1次回折光のスポットをそれぞれ形成し、±1次回折光のスポットを0次回折光及び±2次回折光のスポットの中央にそれぞれ形成すべく配向されたグレーディング素子を備え、前記光検出器は、前記0次回折光、±1次回折光及び±2次回折光のスポットからの戻り光をそれぞれ受光する独立した0次回折光用、±1次回折光用及び±2次回折光用の受光素子を備えることを特徴とする光ピックアップ装置。

【請求項2】 前記0次回折光用の受光素子は、直交する2本の分割線を境界線として各々近接配置されかつ互いに独立した4個の受光部からなり、一方の分割線がトラック伸長方向に平行になるように配置されていることを特徴とする請求項1記載の光ピックアップ装置。

【請求項3】 前記1次回折光用及び±2次回折光用の受光素子の各々は、トラック伸長方向と略平行に伸長する分割線を境界線として各々近接配置されかつ互いに独立した少なくとも2個の受光部から構成されていることを特徴とする請求項1又は2記載の光ピックアップ装置。

【請求項4】 前記0次回折光用の受光素子に接続されかつその出力信号に基づいて第1トラッキングエラー信号を生成する第1トラッキングエラー信号演算回路と、前記0次回折光用及び±1次回折光用の受光素子に接続されかつそれらの出力信号に基づいて第2トラッキングエラー信号を生成する第2トラッキングエラー信号演算回路と、前記0次回折光用及び±2次回折光用の受光素子に接続されかつそれらの出力信号に基づいて第3トラッキングエラー信号を生成する第3トラッキングエラー信号演算回路と、を備えたことを特徴とする請求項1～3のいずれか1記載の光ピックアップ装置。

【請求項5】 前記光学式記録媒体が互いに異なる構造を有しかつ情報記録信号のトラックピッチが略同一である複数の異なる光学式記録媒体の1つである場合における前記光学式記録媒体の構造を検出する種類検出手段と、前記種類検出手段からの信号に応じて前記第1、第2及び第3トラッキングエラー信号を切り替える選択手段とを有することを特徴とする請求項1～4のいずれか1記載の光ピックアップ装置。

【請求項6】 前記光学式記録媒体が再生専用媒体である場合に、前記0次回折光用の受光素子の信号に基づいてトラッキングエラー信号を得ることを特徴とする請求項5記載の光ピックアップ装置。

【請求項7】 前記光学式記録媒体がグループ記録構造を有する場合に、前記±1次回折光用の受光素子の信号に基づいてトラッキングエラー信号を得ることを特徴とする請求項5記載の光ピックアップ装置。

【請求項8】 前記光学式記録媒体がランド／グループ記録構造を有する場合に、前記±2次回折光用の受光素子の信号に基づいてトラッキングエラー信号を得ることを特徴とする請求項5記載の光ピックアップ装置。

【請求項9】 前記0次回折光用及び±2次回折光用の受光素子に接続されかつ、前記±2次回折光用の受光素子の出力信号に基づいて、前記0次回折光用の受光素子の出力信号に含まれる隣接トラックからの信号のクロストーク量を減少しめるクロストークキャンセル演算回路を備えたことを特徴とする請求項1～8のいずれか1記載の光ピックアップ装置。

【請求項10】 少なくとも前記0次回折光のスポットからの戻り光に非点収差を付与する光学素子を備えることを特徴とする請求項1～9のいずれか1記載の光ピックアップ装置。

【請求項11】 前記非点収差を付与する光学素子はシリンドリカルレンズであり、その中心軸が光ディスクのトラック伸長方向に対して45度の角度で傾斜するよう、戻り光の光路に配置されていることを特徴とする請求項1～10のいずれか1記載の光ピックアップ装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、光ディスクなどの光学式記録媒体に光ビームを照射して情報を記録又は再生する記録再生装置における光ピックアップに関する。

【0002】

【従来の技術】 近年、DVD (Digital Versatile Disc) と称される高記録密度及び大容量の情報記録媒体並びにこれを用いた記録再生システムが広く知られている。DVDでは、DVD-ROM, DVD-RAM, DVD-RW, DVD-Rなどがある。これらは同一ファミリーでありながらまったく違う光ディスク構造をもっている。例えば、図1に示すように、DVD-ROM光ディスク構造では、記録面上に凹凸からなるエンボスビット列が記録情報として形成されている。図2に示すように、DVD-RW, DVD-Rなどは色素又は相変化材料の記録面上にグループを設けその上に反射率が変化したビット列を記録情報として形成するグループ記録光ディスク構造を有している。さらに、図3に示すように、同様な材料でランド及びグループを設けそれらの上に同様にビット列を形成するランド／グループ記録光ディスク構造もある。よって、DVDファミリーで

は、記録再生システムの互換性が求められている。

【0003】一方、従来から、光ビームのトラッキング検出として、3ビーム法による3ビームピックアップが知られている。3ビーム法は、記録トラックの情報ビットを検出するために照射される主ビームに加えて、その両側に副ビームを照射することによりトラッキング検出などをを行う方法である。例えば、3ビームのそれぞれの戻り光のスポット毎に光検出器を設け、各々ラジアルパッショナル信号を検出し、その差動信号を取るようすれば、オフセットの影響を受けにくいうなりきり誤差の検出ができる差動パッシュ法（以下、DPP法という）がある。3つの光ビームを得るには、先ビームを回折格子により回折させ、発生する主ビームの0次回折光と副ビームの±1次回折光とを用いることが一般的である。さらに、3ビームピックアップでは、隣接トラックのクロストークを抑えるために、図4に示すように、目標のトラックに0次回折光の主ビームを、±1次回折光の両副ビームを隣接トラック上に集光させることによって、隣接トラックの信号を同時に読み出し、中央の主ビームによる読み出し信号から差し引くことによってクロストークを相殺するクロストークキャンセル法（以下、CTC法という）を実現している。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】3ビームピックアップでグレーブ記録光ディスクを記録再生する場合、DPP法のトラッキングエラー信号を検出するには、副ビームをグレーブ間に集光する必要がある。一方、3ビームピックアップにおいてグレーブ記録光ディスクでCTC法を行なうには副ビームを隣接するグレーブ上に集光する必要がある。従って、3ビームピックアップでDPP法及びCTC法の動作を同立させる場合、グレーティングを機械的に回転させたり、液晶素子のグレーティングを用いて回折素子のピッチを変えて、副ビームの集光位置を変える必要がある。

【0005】しかしながら、これらの方法ではこの切り替えを瞬時に行なうことが不可能で、例えば記録動作で副ビームをDPP法として用い、再生時にCTC法を行なうことと瞬時に切り替えることができない。これは記録及び再生を瞬時に切り替える必要がある高転送レートの光ディスクシステムには不向きである。本発明は、上述した状況に體みこなされたものであり、光ディスク構造が異なる多種類の光ディスクを記録再生する場合にDPP法によりトラッキングエラー信号を得ることができ、かつ、どの光ディスクを再生する場合でもCTC法を用いることができる光ピックアップ装置を提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明の光ピックアップ装置は、光学式記録媒体の記録面上のトラックに光ビームを集光してスポットを形成する照射光学系、及び、前

記スポットから反射されて戻った戻り光を光検出器へ導く光検出光学系、前記光検出器の出力に基づいて生成されたエラー信号によって駆動される光ピックアップ装置であって、前記照射光学系と前記光ビームの光路中に配置され、前記光ビームから0次回折光、±1次回折光及び±2次回折光を生成し、0次回折光のスポットが形成されたトラックの両側に隣接するトラックに±2次回折光のスポットをそれぞれ形成し、±1次回折光のスポットを0次回折光及び±2次回折光のスポットの中点にそれぞれ形成すべく配向されたグレーティング素子を備え、前記光検出器は、前記0次回折光、±1次回折光及び±2次回折光のスポットからの戻り光をそれぞれ受光する独立した0次回折光用、±1次回折光用及び±2次回折光用の受光素子を備えることを特徴とする。

【0007】本発明の光ピックアップ装置においては、前記0次回折光用の受光素子は、直交する2本の分割線を境界線として各々近接配置されかつ互に独立した4個の受光部からなり、一方の分割線がトラック伸長方向に平行になるように配置されていることを特徴とする。本発明の光ピックアップ装置においては、前記±1次回折光用及び±2次回折光用の受光素子の各々は、トラック伸長方向と略平行に伸長する分割線を境界線として各々近接配置されかつ互に独立した少なくとも2個の受光部から構成されていることを特徴とする。

【0008】本発明の光ピックアップ装置においては、前記0次回折光用の受光素子に接続されかつその出力信号に基づいて第1トラッキングエラー信号を生成する第1トラッキングエラー信号演算回路と、前記0次回折光用及び±1次回折光用の受光素子に接続されかつそれらの出力信号に基づいて第2トラッキングエラー信号を生成する第2トラッキングエラー信号演算回路と、前記0次回折光用及び±2次回折光用の受光素子に接続されかつそれらの出力信号に基づいて第3トラッキングエラー信号を生成する第3トラッキングエラー信号演算回路と、を備えたことを特徴とする。

【0009】本発明の光ピックアップ装置においては、前記光学式記録媒体が互いに異なる構造を有しかつ情報記録信号のトラックピッチが略同一である複数の異なる光学式記録媒体の1つである場合における前記光学式記録媒体の構造を検出する種類検出手段と、前記種類検出手段からの信号に応じて前記第1、第2及び第3トラッキングエラー信号を切り替える選択手段とを有することを特徴とする。

【0010】本発明の光ピックアップ装置においては、前記光学式記録媒体が再生専用媒体である場合に、前記0次回折光用の受光素子の信号に基づいてトラッキングエラー信号を得ることを特徴とする。本発明の光ピックアップ装置においては、前記光学式記録媒体がグレーブ記録構造を有する場合に、前記±1次回折光用の受光素子の信号に基づいてトラッキングエラー信号を得ること

を特徴とする。

【0011】本発明の光ピックアップ装置においては、前記光学式記録媒体がランド／グループ記録構造を有する場合に、前記土 2 次回折光用の受光素子の信号に基づいてトラッキングエラー信号を得ることを特徴とする。本発明の光ピックアップ装置においては、前記 0 次回折光用及び土 2 次回折光用の受光素子の出力信号に基づいて、前記土 2 次回折光用の受光素子の出力信号に基づいて、前記 0 次回折光用の受光素子の出力信号に含まれる際接トラックからの信号のクロストーク量を減少しめるクロストークキャンセル演算回路を備えたことを特徴とする。

【0012】本発明の光ピックアップ装置においては、少なくとも前記 0 次回折光のスポットからの戻り光に非点収差を付与する光学素子を備えることを特徴とする。本発明の光ピックアップ装置においては、前記非点収差を付与する光学素子はシリンドリカルレンズであり、その中心軸が光ディスクのトラック伸長方向に対して 45 度の角度で伸長するよう、戻り光の光路に配置されていることを特徴とする。

【0013】

【発明の実施の形態】次に、本発明による光ピックアップ装置を含む記録再生装置の好適な実施形態について以下に説明する。

(光ピックアップ装置) 図 5 は、本発明の一実施形態である光ピックアップ装置の構成を示す。

【0014】ピット列又はトラックがその上に螺旋又は同心円状に形成された記録層を有する光ディスク 1 は、光ピックアップ装置 3 の対物レンズ 3 7 から離間するように、図示しないスピンドルモータのターンテーブル上に配置されている。光ピックアップ装置 3 は、光源である半導体レーザ 3 1 と、グレーティング 3 2 と、偏光ビームスプリッタ 3 3 と、コリメータレンズ 3 4 と、ミラー 3 5 と、1/4 波長板 3 6 と、対物レンズ 3 7 と、シリンドリカルレンズなどの透光性材料からなる非点収差発生光素子 3 8 と、光検出器 4 0 とを備えている。光検出器 4 0 は、戻り光の 0 次回折光用の受光素子 4 0 0、同土 1 次回折光用の受光素子 4 0 1 及び 4 0 2 並びに同土 2 次回折光用の受光素子 4 0 3 及び 4 0 4 を備えている。

【0015】図 5 に示すように、半導体レーザ 3 1 から射出された光ビームは、グレーティング 3 2 を経て偏光ビームスプリッタ 3 3 に入射する。偏光ビームスプリッタ 3 3 は偏光鏡を有しており、入射した光ビームは偏光ビームスプリッタ 3 3 を通過し、コリメータレンズ 3 4 を経て、ミラー 3 5 により光路を直角に変えられ、1/4 波長板 3 6 を通過し、対物レンズ 3 7 から光ディスク 1 の記録面へ照射される。このように、照射光学系は、対物レンズ 3 7 は光ディスク 1 のピット列又はトラックへ光ビームを集光して記録面上に 5 つの光スポット(図

示せず)を形成する。

【0016】記録面上に照射される 5 つの回折光スポットは、光収と対物レンズの間に配置されたグレーティング 3 2 の回折によって得られる。グレーティング 3 2 は、回折の影響を受けない 0 次回折光を中心に基 1 次回折光、土 2 次回折光(図 9 参照)が発生するよう、そのデューティ比及び回折効率が設定されている。グレーティング 3 2 は、ナチュラルパターンを設けた回折格子は、光ビームを通過させた場合、光ビームの本来の光軸上に現れる 0 次回折光と、照射面上に直線上に所定間隔ごとに離れて現れる高次の回折光を生成する。この実施形態では、土 2 次回折光までの光ビームを用いる。グレーティング 3 2 により、主ビームとしての 0 次回折光と、直線上にて主ビームを中心として対称的に記される 4 本の副ビームの土 1 及び土 2 次回折光が光ディスク 1 の記録面へ照射されることになる。グレーティング 3 2 は、例えばガラス板などの平板に凹凸を形成した回折格子で実現できるが、他には、所定透明電極パターンを備えた液晶パネルを用いても実現できる。

【0017】図 5 に示すように、光ディスク 1 の記録面上の 5 つの光スポットにて反射された戻り光は、光検出光学系により、光検出器 4 0 へ導かれる。すなわち、戻り光は対物レンズ 3 7、1/4 波長板 3 6、ミラー 3 5 及びコリメータレンズ 3 4 を経て、再び光ビームスプリッタ 3 3 に入射する。戻り光は偏光ビームスプリッタ 3 3 により半導体レーザ 3 1 への方向とは異なる方向へ光路を変えられ、非点収差発生光素子 3 8 を経て光検出器 4 0 へ導かれる。非点収差発生光素子 3 8 を通過した戻り光は非点収差を付与され、0 次回折光の戻り光は 0 次回折光用受光素子 4 0 0 へ、土 1 次回折光の戻り光は土 1 次回折光用受光素子 4 0 1、4 0 2 へ、土 2 次回折光の戻り光は土 2 次回折光用光検出器へそれぞれ入射する。光検出器 4 0 における各受光部は受光した光を光電変換してそれぞれ出力する。

【0018】図 6 に示すように、光検出器 4 0 の 0 次回折光用受光素子 4 0 0 は、直交する 2 本の分割線を境界線として各々近接配置されかつ互いに独立した 4 個の等しい面積の受光部(B1、B2、B3、B4)から構成され、一方の分割線がトラック伸長方向(接線方向)に平行になるよう構成されている。また、土 1 次回折光用受光素子 4 0 1、4 0 2 はそれぞれ、トラック伸長方向に略平行に伸長する 1 本の分割線を境界線として各々近接配置されかつ互いに独立した 2 個の受光部(A1、A2)、(C1、C2)から構成される。さらに、土 2 次回折光用受光素子 4 0 3、4 0 4 もそれぞれ、トラック伸長方向に略平行に伸長する 1 本の分割線を境界線として各々近接配置されかつ互いに独立した 2 個の受光部(D1、D2)、(E1、E2)から構成される。光検出器 4 0 は、非点収差法により、光スポットが光ディスク 1 の記録面上で合焦となる場合、戻り光の 0 次回折光が

最小乱円となり、これが0次回折光用受光素子400の分割線の交点に位置するように、配置されている。なお、0次、±1次及び±2次回折光用の受光素子400～404は図6に示すように、直線上に並設される必要はなく、光ディスクに照射される0次、±1及び±2次回折光による光スポットからの5つの戻り光に対応するように独立して配置されればよい。

【0019】図5に示すように、ピックアップ3の対物レンズ37はトラッキングアクチュエータ302に支持されている。トラッキングアクチュエータ302は、後述するトラッキングドライバから供給される駆動信号のレベル及び極性に応じて対物レンズ37を光ディスク1の半径方向に移動せしめ、光ビームを所定トラック上にトレスするトランシングサーボを実行する。

【0020】ピックアップ3には対物レンズ37に取り付けられたフォーカスアクチュエータ(図示せず)も内蔵され、フォーカスアクチュエータは供給される駆動信号のレベル及び極性に応じて対物レンズ37を光ディスク1の表面に垂直な方向(光軸方向)に移動せしめ、光源から発射された光ビームを所定の記録層に集光するフォーカスサーボを実行する。

【0021】かかるフォーカスサーボには非点収差法が用いられ、図5に示すように、非点収差法は光学素子のシリンドリカルレンズ38は、その中心軸(レンズ面をなす円柱面の回転対称軸)が光ディスク1のラック伸長方向に対して45度の角度で伸長するように、戻り光の光路に配置されている。この構成により、対物レンズ37により収束する戻り光に非点収差を与え、光ディスク1の記録面及び対物レンズ37距離間に応じて手前に絵像、中に最も最小散乱円及び奥に絵像を形成する。よって、検出光学系は、光ビームの合焦時に0次回折光スポットから戻り光の最小散乱円を0次回折光用受光素子400に照射し、デフォーカス時に受光面の対角方向に延びた絵像及び梢円形の0次光スポットを0次回折光用受光素子400に照射する。よって、0次回折光用受光素子400の対角位置に一对の受光部(B1, B3)の和信号と他方の一对の受光部(B2, B4)の和信号と差動をとることで非点収差法のフォーカスエラー信号を得ることができる。

【0022】図7に示すように、光検出器40はサーボ信号演算部410に接続されている。サーボ信号演算部410は後述する種々の信号を生成し、これらを、接続された制御部509及びスイッチ回路510へ供給する。サーボ信号演算部410からスイッチ回路510へは第1、第2及び第3トラッキングエラー信号TE1、TE2、TE3が供給される。スイッチ回路510はトラッキングドライバ513に接続され、制御部509からの信号により制御される。制御部509は、プロセッサ、ROM、RAMを含むマイクロコンピュータである。スイッチ回路510により選択中継されたトラッキ

ングエラー信号がトラッキングドライバ513に供給され、トラッキングドライバ513がスイッチ回路510の出力に応じた駆動信号を発生し、これをトラッキングアクチュエータ302に供給する。これにより、スイッチ回路510が1つの入力を選択し、サーボ信号演算部410の出力信号をトラッキングドライバ513へ中継するトラッキングサーボループの閉ループには、選択されたトラッキングエラー信号のレベルがゼロになるよう、すなわち光スポットがトラックに追従するよう

にトラッキングアクチュエータ302が駆動される。

【0023】光検出器40はまた、公知のCTC法を実行するクロストークキャンセル演算部610に接続されている。クロストークキャンセル演算部610は制御部509により制御され、再生信号のRF信号(Radio Frequency)を出力する。再生信号はRFアンプ(図示せず)やイコライザ(図示せず)を経て読取信号処理系(図示せず)に伝送される。

【0024】(サーボ信号演算部)図8に示すように、光検出器40に接続されているサーボ信号演算部410は0次回折光用のトラッキングエラー信号演算回路411、±1次回折光用のトラッキングエラー信号演算回路412並びに±2次回折光用のトラッキングエラー信号演算回路413を備えている。これらは、トラッキングエラー信号演算回路は、光電変換により出力された光検出電気信号に基づいて所定の演算を行って複数のトラッキングエラー信号を生成する。

【0025】0次回折光用のトラッキングエラー信号演算回路411は、位相差法(以下、DPP法という)に基づいて構成されている。DPP法は1つのトラックにおける凹凸のピット列(記録信号)からの回折パターンの位相変化からトラッキングエラー信号を検出する方法である。0次回折光用のトラッキングエラー信号演算回路411では、4分割された0次回折光用受光素子400の分割線の交点に對して対角位置にある一方の2つの受光部(B1, B3)からの出力の和信号と他方の2つの受光部(B2, B4)からの和信号の位相差を比較位相器411aにて比較演算することにより、第1トラッキングエラー信号TE1を生成する。このように、0次回折光用の受光素子400に接続された0次回折光用のトラッキングエラー信号演算回路411はその出力信号からDPP法に基づいて第1トラッキングエラー信号TE1を生成する。

【0026】また、0次及び±1次回折光用の受光素子400、401、402に接続された±1次回折光用のトラッキングエラー信号演算回路412は、DPP法に基づいて構成されている。DPP法は1つのトランクとその両側の隣接トラックにおけるピット列や記録マークなどによる光スポットの反射率の変化すなわち強度分布の変化からトラッキングエラー信号を検出する方法である。

【0027】DPP法では、2本の副ビームとそれら間の中央の主ビームは記録面上に発光され合焦したとき、主ビームのスポットがトラックの中心を通過すれば、反射光の強度分布は左右対称になり、0次回折光用受光素子400からの検出信号（B1+B4）と（B2+B3）との差は生じない。一方、主ビームのスポットがトラックの中心からずれた状態でビットを通過すれば、反射光のトラック両側の強度分布に差が生じ、0次回折光用受光素子400からの検出信号の差が生じるが、このブッシュル法では、対物レンズ3の光ディスク半径方向シフトによりトラッキングエラー信号にオフセットが生じてしまうという問題があるので、両側の2本の副ビームにより生成されるスポットの間隔をトラックの間に等しく

$$TE2 = [(B1+B4) - (B2+B3)] - G \times [(A1-A2) + (C1 - C2)] \dots (1)$$

ただし、上記式中、Gは補正係数を示す。

【0030】さらに、0次及び±2次回折光用の受光素子400、403、404に接続された2次回折光用のトラッキングエラー信号演算回路413は、±1次回折光用のトラッキングエラー信号演算回路412と同様に、DPP法に基づいて構成されている。よって、0次

$$TE3 = [(B1+B4) - (B2+B3)] - G \times [(D1-D2) + (E1 - E2)] \dots (2)$$

ただし、上記式中、Gは補正係数を示す。

【0032】図8に示すように、さらに、サーボ信号演算部410は0次回折光用の受光素子400に接続されたSUM信号演算回路414も有し、受光素子400の受光部（B1+B3+B2+B4）すべての光電変換信号の合計をフォーカスSUM信号として生成し、制御部509に供給する。また、サーボ信号演算部410は0次回折光用の受光素子400に接続されたフォーカスエラー信号演算回路415も有し、0次回折光用受光素子400の受光部の符号をその出力として示すと、非点取差法から得られるフォーカスエラー信号FEは、以下の式（3）によって得られる。

【0033】

【数3】

$$FE = (B1+B3) - (B2+B4) \dots (3)$$

さらにまた、サーボ信号演算部410は±1次回折光用の受光素子401、402に接続されたラジアルブッシュル信号演算回路416も有し、±1次回折光用の受光素子からのラジアルブッシュル信号を検出し、その差動信号からブッシュル信号を生成する。

【0034】図7に示すように、サーボ信号演算部410は、図示しないイコライザなどにより波形等化された第1トラッキングエラー信号TE1をスイッチ回路510の1つの入力端子（A）に供給する。同様に、第2トラッキングエラー信号TE2をスイッチ回路510の1つの入力端子（B）に、第3トラッキングエラー信号TE3を入力端子（C）に供給する。

設定することにより、2本の副ビームにより生成されたスポットからの反射光の強度分布の差を±1次回折光用受光素子401、402の受光部からの検出信号より求めそれを補正して、対物レンズの半径方向シフトに対するオフセット信号を消去するのである。

【0028】すなわち、±1次回折光用のトラッキングエラー信号演算回路412では、0次回折光用の受光素子400並びに±1次回折光用受光素子401、402の受光部の符号をその出力として示すと、得られるトラッキングエラー信号TE2は、以下の式（1）によって示される。

【0029】

【数1】

回折光用の受光素子400並びに±1次回折光用受光素子403、404の受光部の符号をその出力として示すと、得られるトラッキングエラー信号TE3は、以下の式（2）によって示される。

【0031】

【数2】

【0035】スイッチ回路510には、制御部509からの制御信号が供給され、光ディスクの種類に対応した制御信号に応じて端子（A）～（C）のいずれかをを選択的にに出力するよう切り換え制御される。これにより、スイッチ回路510がいずれかのトラッキングエラー信号を選択し、トラッキングドライブ513と連携して、トラッキングサーボループの閉成時には、光ビームが記録面のトラックに追従するようトラッキングアクチュエータ302を駆動する。

【0036】光ディスクの種類の検出は、例えば光ディスクを収納するカートリッジに判別マークを設け、これを判別することや、例えば、光ディスクにフォーカスサーボほか光ディスクに設けられた記録情報に基づいて光ディスクの種類を判別することで行われる。光ディスクの種類の検出において、光ディスクなどに情報が記録されていない場合はフォーカスSUM信号による光ディスクの反射率の変化及びブッシュル信号レベルなどで例えば以下のように判別する。

【0037】制御部509は、所定閾値レベルに基づいて光ディスクの反射率が大でかブッシュル信号レベルが小の場合はROM光ディスクと判別する。反射率小及びブッシュル小の場合はグループ記録光ディスクと判別する。反射率小及びブッシュル大の場合はランドノグループ記録光ディスクと判別する。次に、制御部509は、上記光ディスクの判別結果により、ROM光ディスクの場合は第1トラッキングエラー信号TE1を、グループ記録光ディスクの場合は第2トラッキングエラ

一信号T E 2を、ランド/グループ記録光ディスクの場合は第3トラッキングエラー信号T E 3を、スイッチ回路510で選択する。なお、再生時の場合は光ディスクの種類に関わらずCTC法の演算を行う。

【0038】(光ピックアップ装置の動作例)光ディスクに照射される0次、±1及び±2次回折光による光スリットからの戻り光をそれぞれ個別に受光する光検出器40の0次、±1次及び±2次回折光用の受光素子400～404との関係について説明する。また、ROM光ディスクを再生する場合について説明する。図9に本発明でのROM光ディスク面上でのスポットの配置を示す。0次回折光は信号が記録されたトラックに集光され、±2次回折光は隣接するトラック上に集光するように配置される。この場合±1次回折光はトラック間に集光している。

【0039】ROM光ディスクを再生する場合、0次回折光用の受光素子400、同士±1次回折光用の受光素子401及び402並びに同士±2次回折光用の受光素子403及び404は図10に示すように光ディスク面上の5ビームの戻り光すべてを受光する。第1トラッキングエラー信号T E 1は、0次回折光による主ビームを用い、0次回折光用の受光素子400に接続された0次回折光用のトラッキングエラー信号演算回路411によりDPP法である。

【0040】0次回折光が照射されるトラックの両側の隣接トラックに集光された±2次回折光は、±2次回折光用受光素子403、404で受光されCTC法に用いられる。よって、ROM光ディスクを再生する場合は0次及び±2次回折光用の受光素子400、403、404からの信号を用いてCTC法を行うことができる。次に、グループ記録光ディスクを記録再生する場合について説明する。図11に本発明でのグループ記録光ディスク面上でのスポットの配置を示す。0次回折光は信号が記録されたトラックに集光され、±2次回折光はROM光ディスクの場合と同様に隣接するトラック上に集光するように配置される。一方、±1次回折光はグループに集光するように配置される。

【0041】グループ記録光ディスクを再生する場合も図12に示すように0次回折光用の受光素子400、同士±1次回折光用の受光素子401及び402並びに同士±2次回折光用の受光素子403及び404は光ディスク面上の5ビームの戻り光すべてを受光する。この±1次回折光を受光する±1次回折光用受光素子401、402でブッシュブル信号を得ることができるので、0次回折光用受光素子400で得られる主ビームのブッシュブル信号と差動をとることで対物レンズシフトによるオフセットの影響のないDPP法のトラッキングエラー信号を得ることができる。再生時には、±2次回折光用受光素子403、404を用いてCTC法を行う。また、再生時に0次及び±1次回折光用の受光素子400、4

01、402を用いてDPP法トラッキングエラー信号を得てもよい。

【0042】次に、ランド/グループ記録光ディスクを記録再生する場合について説明する。図13に本発明でのランド/グループ記録光ディスク面上でのスポットの配置を示す。0次回折光は信号が記録されたトラックに集光され、±2次回折光はROM光ディスク、グループ記録光ディスクの場合と同様隣接するトラック上に集光するように配置される。

【0043】ランド/グループ記録光ディスクを再生する場合も図14に示すように0次回折光用の受光素子400、同士±1次回折光用の受光素子401及び402並びに同士±2次回折光用の受光素子403及び404は光ディスク面上の5ビームの戻り光すべてを受光する。±1次回折光用受光素子401、402の他に、±2次回折光を受光する±2次回折光用の受光素子403、404でもブッシュブル信号を得ることができるので、0次回折光用の受光素子400で得られる主ビームのブッシュブル信号と差動をとることで対物レンズシフトによるオフセットの影響のないDPP法のトラッキングエラー信号を得ることができ。光ディスク構造の違いがあるのでグループ記録光ディスクの場合とDPP法トラッキングエラー信号を得るための光検出器が異なる。再生時には、0次及び±2次回折光用の受光素子400、403、404の信号を用いてCTC法を行うのは、ROM及びグループ記録ディスクの場合と同じである。

【0044】いずれの光ディスク構造においても再生時にCTC法で用いるビームは±2次回折光であり、CTC法で用いる副ビーム光検出器は光ディスク構造によらず±2次回折光用の受光素子403、404なので製作が困難な光検出器を多く設置する必要がない。以上のように、ROM光ディスク、グループ記録光ディスク及びランド/グループ記録光ディスクは構造が異なるものの、隣接する情報が記録されたトラックビッチは、略同一である。すなわちCTC法に用いる副ビームの配置は光ディスクの構造によらず略同一である。このことは次世代の光ディスクにも共通して成立とすれば、上記実施形態は有効である。

【0045】

【発明の効果】本発明において光ディスク構造が異なる3種類の光ディスクを記録再生する場合において、どの光ディスクを記録する場合でもDPP法のトラッキングエラー信号を得ることができ。どの光ディスクを再生する場合でもCTC法を用いることができるためプレアビリティに優れた装置を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 ROM光ディスク構造を示す拡大概略斜視図。

【図2】 グループ記録光ディスク構造を示す拡大概略斜視図。

【図3】 ランド／グループ記録光ディスク構造を示す拡大概略斜視図。

【図4】 光ディスクを示す拡大概略平面図。

【図5】 本発明による光ピックアップ装置の一実形態の構成を示す概略斜視図。

【図6】 本発明による光ピックアップ装置の光検出器の構成を示す概略平面図。

【図7】 本発明による光ピックアップ装置の経路プロック図。

【図8】 本発明による光ピックアップ装置のサーボ信号演算部の概略プロック図。

【図9】 ROM光ディスクの平面図。

【図10】 本発明による光ピックアップ装置の光検出器の平面図。

【図11】 グループ記録光ディスクの平面図。

【図12】 本発明による光ピックアップ装置の光検出器の平面図。

【図13】 ランド／グループ記録光ディスクの平面図。

【図14】 本発明による光ピックアップ装置の光検出器の平面図。

【符号の説明】

1 光ディスク

3 1 半導体レーザ

3 2 グレーティング

3 3 偏光ビームスプリッタ

3 4 コリメータレンズ

3 5 ミラー

3 6 1/4 波長板

3 8 非点収差発生光学素子

4 0 光検出器

3 0 2 トラッキングアクチュエータ

4 0 0 0 次回折光用受光素子

4 0 1、4 0 2 土1次回折光用受光素子

4 0 3、4 0 4 土2次回折光用受光素子

4 1 0 サーボ信号演算部

4 1 1 0 次回折光用のトラッキングエラー信号演算回路

4 1 1 a 比較位相器

4 1 2 土1次回折光用のトラッキングエラー信号演算回路

4 1 3 土2次回折光用のトラッキングエラー信号演算回路

4 1 4 SUM信号演算回路

4 1 5 フォーカスエラー信号演算回路

4 1 6 ラジアルブッシュブル信号演算回路

5 0 9 制御部

5 1 0 スイッチ回路

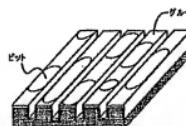
5 1 3 トラッキングドライバ

6 1 0 クロストークキャンセル演算部

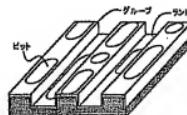
【図1】



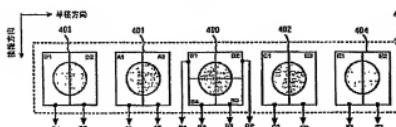
【図2】



【図3】



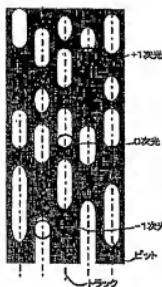
【図6】



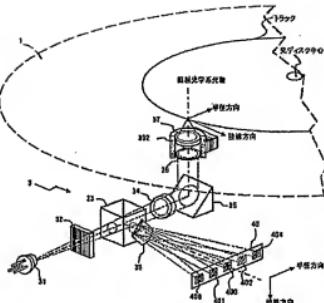
【図10】



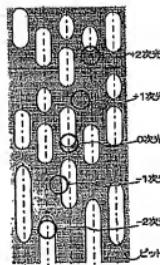
[图 4]



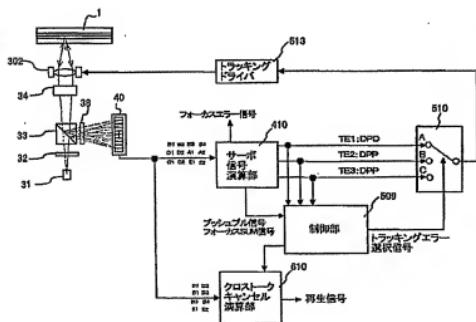
【図5】



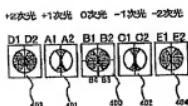
【図9】



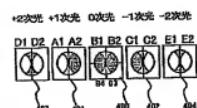
【图7】



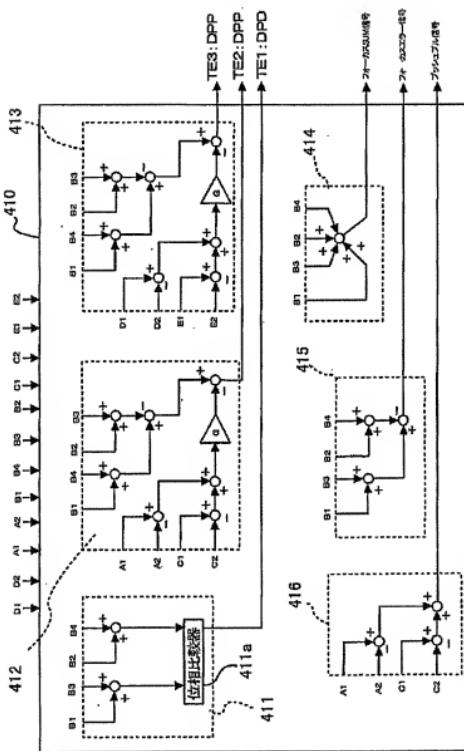
【圖 1-2】



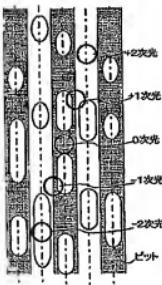
[圖 1-4]



[§ 8]



【図13】



フロントページの続き

Fターム(参考) 5D118 AA21 AA26 CA13 CA24 CB06
CD03 CD11 CF03 CF06 CG05
CG24 DA03
5D119 AA14 AA41 BB01 BB04 EA02
EC05 JA08 JA22 KA04 KA08
KA19